

福祉教育・ボランティア学習ご相談 Q&A

地域と連携して授業をするメリットって何ですか？

先生

児童生徒が日々暮らし・成長していくまち(=地域)にはさまざまな人が生活しています。学校や家庭だけでは出会うことのできない人たちを知り、ともに過ごす体験からの気づきを通じて児童生徒が新しい成長の姿を見せてくれるかもしれません。

社会福祉協議会(社協)って何ですか？

先生

社会福祉法に基づきすべての区市町村・都道府県に設置されている、非営利の民間組織です。地域に暮らすみなさんのほか、民生委員・児童委員、社会福祉施設などさまざまな人材や社会資源とのつながりがあり、児童生徒の学びに合わせた地域のつなぎ役を担うことができます。

ボランティアセンター(ボラセン)、市民活動センターって何ですか？

先生

ボランティアの紹介や活動の相談、情報提供を行い人と人・活動と地域をつなぐ役割を担っています。社会福祉協議会がボランティア・市民活動センターを運営している場合も多いですが、NPO法人や行政など非営利団体によって運営されていることもあります。

社協やボラセンってどんなことができますか？

先生

例えば、車いす体験や高齢者疑似体験の機材を貸し出したり、福祉教育のための講師の相談や、ボランティア活動の相談ができます。各センターによって貸し出し物品には違いがあります。お問い合わせください。

地域で暮らしている方を授業に呼びたいのですが、どんなところがありますか？

先生

ボランティアグループ・NPO・障害の当事者団体・民生児童委員・福祉施設など地域にはさまざまな方がいます。社協やボラセンのつながりからご紹介できる場合もあります。

児童生徒が学校内に限らず地域で活動できる場を探しているのですが、どんなところがありますか？

先生

体験を受け入れている福祉施設などのほか、地域で開催されるさまざまなイベントなど(地域のお祭り、子育て広場、国際交流、高齢者の集まる場、スポーツ大会など)があるかもしれません。ご相談ください。

授業づくりの相談もできますか？

先生

社協やボラセンと学校が、一緒に考えて一緒につくる取り組みの例を裏面に紹介していますので、ぜひ参考にしてみてください。



学校と地域と

一緒につくろう

福祉教育・ボランティア学習



児童生徒が暮らす地域社会からさまざまなことを学び成長する教育活動のひとつとして、福祉教育・ボランティア学習があります。

このリーフレットは、そういった学習を学校と地域が協働して「つくる」という視点を大切にしてまとめたものです。

各区市町村にある社会福祉協議会やボランティアセンター等を通じて地域に存在する団体や個人とつながりながら、福祉教育・ボランティア学習をすすめてみませんか？

さらに、学校と地域がつながる活動事例や考え方のヒントになる情報はこちらのQRコードから参照してください。



先生と地域の出会い ～みんなで作るやさしいまち～

1 きっかけ



先生は、「福祉の授業をしたい」と思っていました。けれど、「障害のある人や高齢者の暮らしについてあまり分からない。地域とのつながりもなく、どう教えたらいいんだろう。」と迷っていました。

2 出会い



そんな時、「地域のことは社協が詳しい」と聞きました。社協は、地域のボランティアや福祉団体、障害のある人たちを支援していて、「先生、一緒に授業をやりましょう!」と声をかけてくれました。先生は「地域とつながれる授業になるかも」とワクワクしてきました。

3 協働のはじまり



車いすを使う人や目の見えない人や耳の聞こえない人、ボランティアさんを紹介してもらいました。授業では「見えにくい世界を体験する」「高齢者の気持ちを考える」などの学習を行いました。児童生徒は、「できないことを助け合ってすごい」「みんなちがって、みんないい」と感じました。

4 学びの広がり



授業をきっかけに、児童生徒は学校の中でも「やさしい行動」を始めました。地域の清掃活動や、高齢者へのメッセージカードづくりも実施。「知る・考える・行動する」学びが、日常の中で生きていきました。

5 つながる地域へ



地域の人たちは「小学校と一緒に活動すると元気をもらえる」と笑顔に。社協は「児童生徒と作る福祉のまち」を実感。先生は「地域とつながることで、児童生徒が学んだ学びをしている」と嬉しくなりました。地域には、学校を支えてくれる「よき理解者」が増えていくのを感じました。

6 学校×地域 連携のメリットまとめ

- 学校** 実際の体験を通して、児童生徒が「思いやりを学べる」。
- 社協** 次の世代に地域福祉の心を伝えられる。
- 地域** 児童生徒とつながることで、人と人の関係が豊かになる。
- 学びの継続** 福祉教育は防災・環境・多文化共生などにも広がり、探究的な学びへつながる。
- 支え合いの循環** 地域が学校を支え、学校が地域を元気にする。

学校が地域で取り組める活動例

知る活動(事前活動を含む)

- 【小学生】**
 - 地域の歴史や特徴を知る
 - 自然や動物の状況を知る
 - 高齢者のさまざまな体験を知る
 - 福祉とは何かを知る
- 【中学生】**
 - 災害の状況や減災や復興
 - 環境保護やリサイクル
 - 高齢者や障害者のケアの現状と課題
 - 外国籍の方々や外国にルーツがある方々から各地の社会や文化
- 【高校生】**
 - 福祉や保健医療の現状と課題
 - 難民や国際的支援課題

体験する活動(体験学習)

- 【小学生】**
 - 地域の清掃・クリーン活動
 - 野鳥や小動物の保護活動
 - 高齢者や障害者施設の訪問
 - 地域の祭や行事への参加
- 【中学生】**
 - 高齢者や障害者の施設の訪問・交流
 - 保育所や幼稚園で幼児と触れ合う
 - 障害者(身体障害、知的障害、精神障害など)の活動へ参加する
- 【高校生】**
 - 福祉施設でのボランティア
 - 生活困窮者へのサポートや交流
 - 子ども食堂や地域の居場所への参加
 - 地域の避難訓練に参加する

考え、深める活動(事後活動を含む)

- 【小学生】**
 - 高齢者や障害者に関する社会課題
 - 募金やリサイクル活動を継続的にやる
 - 自分たちの活動を発信する
- 【中学生】**
 - 募金や収集などの活動
 - 地域の福祉課題や環境・生活課題
 - 地域に伝わる芸能や文化
 - 海外への支援活動
- 【高校生】**
 - 福祉施設や社会福祉協議会でもインターンシップ
 - 認知症サポーター養成講座に参加
 - 地域のボランティア活動や市民活動に継続的に参加



先生と地域で連携して取り組む授業の例

みんなの幸せプロジェクト — 障害について知ろう — (小学校)

- 事前学習**
 - 障害当事者のお話を聞く。
 - 障害当事者の方が「幸せ」を感じることで、日常生活で大変さを感じるなどについて知る。
- 体験学習**
 - 車いすに乗ったり、押し回したりする方法を知る。
 - 車いす体験を行い、坂道や段差の大変さやサポートの大切さについて考える。
- 事後学習**
 - 障害当事者が幸せに暮らすことのできる社会をつくるために、自分たちに何が出来るかについて考え、話し合い、実行する。

地域で支えあう — 災害時に支え合う地域をつくる — (中学校)

- 事前学習**
 - 被災経験者から災害時の困りごとや、地域での助け合いについてお話を聞く。
 - 「自分たちの防災」について考える。
- 体験学習**
 - 避難所運営ゲームや非常食調理、車いす避難体験などを体験する。
 - 体験から、助け合いの重要性や連携の難しさを知る。
- 事後学習**
 - 体験をふりかえり、災害時に自分自身でできる行動についてまとめる。
 - 地域や家庭における防災へとつなげる。

学校が地域と連携するお祭りボランティア体験学習 (高等学校)

- 事前学習**
 - ボランティア活動(社会貢献活動)について知る。
 - 地域活動について知る。
 - 学校周辺地域のお祭り等を調べ、その特色を調べる。
- 体験学習**
 - お祭り参加の事前学習で、その全体像をつかむ。
 - 役割を理解し、円滑なコミュニケーションに努める。
 - 自身もお祭りを楽しむ。
- 事後学習**
 - お祭りに参加して学んだことや、自分自身の変化についてふりかえる。
 - お祭りが地域にどのような影響を及ぼすかを考える。

見て！触って！私たちの作品 (特別支援学校)

- 事前学習**
 - 展示会のために作品を作る。
 - 自分たちで作った物や作品を、多くの人に見てもらって喜びを分かち合う方法を話し合う。
- 体験学習**
 - 作品を展示場所に運んで、準備を進める。
 - 展示会のお客さんに、作品を説明し、買ってもらえるように働きかける。
- 事後学習**
 - 展示会への参加について感想を述べ合い、話し合う。
 - 多くの人に見てもらえるようにするにはどうすればいいかを話し合い、実行する。

展開のポイント

- 障害当事者の人柄が伝わるように、困りごとだけでなく、好きなことや幸せを感じるなどについてもお話しいただく。
- 車いす体験で、実際に車いすに乗ったり、サポートしたりすることで、障害当事者が困っていることを実感できるようにする。
- 自分たちにもできることについて話し合い、社会の一員としての自覚をもつ。

さらにできること

- 車いす生活者だけでなく、視覚障害者や聴覚障害者についても取り上げ、様々な障害当事者との交流の機会をもつ。
- 発表会を企画して、障害当事者のお話で知ったこと、体験を通して学んだことを他の学年や保護者、地域の方に知ってもらう。
- 特別支援学校の児童たちと一緒に遊んだり、ポッチャ大会等を開催したりする。

展開のポイント

- 授業導入時に、「自助・共助・公助」に関する考え方を確認する。
- ボランティアセンターの協力の下に、避難所運営体験やクロスロードゲームなどの体験学習を実施する。
- 体験学習終了後に、家庭や地域でできる防災学習について考え、みんなの前で発表し、共有を図る。

さらにできること

- 区市町村の防災ハザードマップを参考にしながら、家族と一緒に避難ルートについて確認をする。
- 地域防災訓練や防災ボランティア活動に参加することを通して、支え合う防災について継続的に考える。
- 保護者と協力しながら、通学路の安全について調査をして、地図にまとめる。

展開のポイント

- 社会福祉協議会やお祭り実行委員会との顔合わせを行い、お祭りの目的や、当日の役割を確認しあう時間を設けるなど、事前の打ち合わせを綿密に行う。
- お祭りブース運営を主体的に活動できるように考え実践する。
- ボランティア活動(社会貢献活動)の意義について考える時間を設ける。

さらにできること

- 振り返りシートを活用し、評価できる点や改善すべき点について話し合い、次年度以降の地域とのつながりについて考える。
- お祭りを「日本の伝統文化」という観点から調べ、日本の伝統文化について興味や関心をもつ。
- ボランティア活動について調べ、興味や関心をもち、行動の変容へつなげる。

展開のポイント

- 学習成果としての陶芸や革細工などの作品を、様々な人に見てもらうことで交流のきっかけ作りとする。
- ブースの運営に重要な役割を担っていることに気づく。
- 作品を売ることも、作品制作の苦勞や作品の特徴を説明することのほうが大切であることを知る。

さらにできること

- 社会福祉協議会と連携して、社協まつりやその他のイベントにおいて、恒常的に作品を展示する場を作る。
- 商店街など、人々が行き交う場所でポップアップストアを解説してみる。
- 課外活動として、児童生徒が自律的に活動を展開できることをめざす。

児童の声

- 車いすに乗って、少しの段差や坂道が怖いことが分かりました。
- 車いすです生活する人が安心してらせる社会になるように、私にできることを考えていきたいです。



生徒の声

- 自分の身近なところに、危険が多くあることに気づきました。
- 防災は自分の命を守るだけではなく、人を助けることにもつながるといことがわかりました。



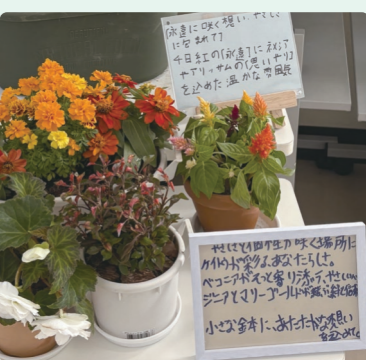
生徒の声

- 「ありがとう」の言葉をもらい、人の役に立てたと実感できました。
- 参加者の笑顔を見て、達成感が湧いてきました。
- 将来に活かす体験ができました。



児童・生徒の声

- 自分たちの作品を買ってもらえたことがとてもうれしかったです。
- お店にきてくれたお客さんといういろいろなことを話せたことが楽しかったです。



先生の声

- 障害当事者のお話を聞いたり、車いす体験をしたりすることで、子どもたちは「障害」を自分事としてとらえ始めたようでした。
- 障害当事者のお話が貴重でした。

先生の声

- 単発な体験学習ではなく、「知る・考える・行動する」学びのプロセスを通して、生徒が「地域を考える重要性」について実感してくれました。

先生の声

- 普段の授業では見せない顔を見ることができました。
- ブースを任せられたことで、自己肯定感が高まりました。
- 笑顔で接する姿がたくましかったです。

先生の声

- 保護者や地域の人々に評価されることで、生徒が社会参加しているという実感ももてました。
- 生徒は学校とは違う緊張感と充実感を感じたようでした。